

那古野下町衆

報告書

目次

- ①人材発掘・育成事業
那古野下町衆について
那古野下町衆が考える当該地区の課題
ヒアリング
- ②地域共創シンポジウムにおける成果報告
- ③人材育成のためのカリキュラム作成

人材発掘・育成事業

<那古野下町衆について>

那古野下町衆は2007年に名古屋市西区那古野の円頓寺商店街・円頓寺本町商店街、四間道の商店主を中心に、コンサルタントや企業関係者、大学関係者、建築関係者などの有志が集まりスタートした。

発足以来、「名古屋市西区那古野のまちづくりを点や線ではなく面で考える」として、イベントの開催や商店街等で行われるイベントの補佐、防災について、また観光についてなど、様々な件について取り組んできた。

現在20名程のメンバーで月一回会議をし、那古野エリアの課題に取り組んでいる。

<名古屋市西区那古野とは>

名古屋市西区那古野は名古屋駅、名古屋城、伏見などまで徒歩圏内に位置している。円頓寺商店街、円頓寺本町商店街、四間道、御本坊筋などを含むエリアを指す。

名古屋駅の高層ビルがそばにありながら、円頓寺商店街や円頓寺本町商店街のような昔ながらの古き良き商店街を含み、さらに蔵と長屋が今なお残り名古屋の歴史を感じられる四間道や御本坊筋といった観光的な場所がある中、古くから生活を営む人々も共に暮らしている地域でもある。

近年は、蔵や長屋を改装した店舗も増え、観光スポットとして注目されている。週末や連休などは観光客が訪れる場所となった。特にコロナ禍が明けてからは外国人観光客も急増している。もともとは観光地ではなく、商店街含め生活の場として成り立ってきた那古野エリアではあるが、時代の流れとともに、日常の利用者と併せ、観光客は各店舗にとっても重要なお客様となってきている。

那古野下町衆が考える当該地区の課題

那古野下町衆は、過去にイベントや店舗誘致について取り組んできたが、「集客」という観点のフェーズは終わりを迎つつある。すでに観光地として注目されている現状、今後は「観光」に対する取り組みを考えていくことが必要となってきた。

今回、共創プロジェクトにおいて移動・交通を課題として取り組むにあたり、「観光」の観点から現在の課題を浮き彫りすべく、那古野下町衆内で共創プロジェクトチームを組み、まずは既存の交通について調査することにした。

※会議議事録①参照

会議議事録①

那古衆共創プロジェクト分科会①

2023年12月11日(月)19時半～ Mirumeにて



11月20日(月)に行われた那古野下町衆の会議にて、共創プロジェクトにて、どのような課題に取り組むかを検討しました。その中で既存の移動方法についてどのようなものがあり、どのぐらいの移送量なのか把握し観光に生かせないかという意見が出ました。

そこでカワカタ、松本、中西、多賀の4人のチームで、まずは既存の移動方法をまとめることになりました。

12月11日(月)、第一回会議では、カワカタと松本、Mirumeのスタッフさんも少しだけ参加して、中西と多賀がまとめてくれた資料を参考にしながら、チームとしてどのような動きをしていくかを話し合いました。



● 調査すること

① 円頓寺商店街（那古野）から、もしくは円頓寺商店街（那古野）までの移動方法の種類を調べる

② 輸送量の調査

→ めぐる & 市バス、船

③ カリテコ、チャリチャリ、LUUP を中心にマップにまとめる

● 課題として何があるか

→ 外国人対応をどうするか

→ アカウント取得の手間

→ ポートの数が少ない

● その他

「ワークショップ」を開催

カリテコ、チャリチャリ、LUUP の話を聞いて課題や展望を知る

●最終着地点→マップをつくる、今後の課題をまとめる

このような内容で、今後チームとして調査を進めていくこととなりました。

那古野エリアに来るための交通手段として、円頓寺商店街まで徒歩7分ほどの位置に名古屋市営地下鉄「国際センター」駅があり、また名古屋駅から定期的に名古屋市営バスが近隣を通っている。名古屋観光ルートバスも四間道というバス停を設置しているため、観光客が当地域に来るのにそれほど問題は見当たらない。

しかしながら「集客」することを課題としていたころから変わらない課題の一つとして「回遊時間の短さ」がある。カフェや飲食店は多くあるが、見る・買うといった場所が少なく、滞在時間が限られてしまうと考えられる。

しかしながら、当地域は名古屋城や名古屋駅、伏見・栄、ノリタケの森やトヨタ産業技術記念館などへ徒歩で行ける距離に位置しているため、那古野とその他のエリアとの回遊性を今以上に高めることで、この課題をクリアしていけるのではと考えた。

※会議議事録②参照

会議議事録②

那古衆共創プロジェクト分科会②

2023年12月18日(月)20時～ Mirumeにて



今回は調査を進めるとともに、1月27日のプレゼンに向けての準備についても話し合いました。

●プレゼンに向けて

- ページネーションをつくる

※以下 chatGPT でページネーションイメージを勝手に作りました

1. タイトルページ

プレゼンテーションのタイトルと、あなたの名前や職位などの紹介。

2. 目次ページ

プレゼンテーションの概要を簡潔に提示。

3. 導入ページ

話題の背景や重要性を説明し、聴衆の関心を引きつける。

4. 問題点の提示

課題や問題点を明確に示す。

5. 現状分析

現在の状況や関連データを提示。

6. 解決策の提案

問題解決のための具体的な方法や戦略を提案。

7. 事例紹介

解決策の有効性を示すための実例やケーススタディ。

8. 利点と展望

提案する解決策の利点や将来の見通しについて説明。

9. 質疑応答の準備

質問を受け付ける準備と、そのためのページ。

10. 締めくくりと感謝のページ

締めの言葉と、聴衆への感謝の表明。

●最終目標...マップ製作

- Google マップと同じにならないように
- もっと範囲を絞ってマップを作成
- プレゼンの際にはプロットしたマップは要らないかも
- チャリチャリ、カリテコ、LUUP などの画像を貼り、『これをまとめてマップをつくります』というページをつくる
- チャリチャリ、カリテコ、LUUP をまとめる
- バスなどは無し
- 今後ポートが増えていく事が予想されるため～、という結論にする

●メモ

- 市バス：70 人乗り
- もっと人が来てもらえるように交通状態を確認
- ポートをこういうところに設置することでもっと人が循環するかも



また、平日・週末のチャリチャリやループの在り台数を調査し、どのような台数がどのような日にあるのかを確認
してみることにしました。

そして、年明けに名鉄協商のカリテコについて、担当者の成瀬さんにお話を聞くことになりました。現在のシ
ェアサイクルやシェアカーについて、普及率や課題。今後の展望などを聞けたらと考えています。

<課題についてのアプローチ>

回遊性を高めるために、近年コロナ禍を経てより身近になったシェアリングサービス(自転車・キックボード)の有効活用とさらにそこに派生する課題について、那古野界隈でも見かけるカリテコとチャリチャリさんにヒアリングを行うことにした。

またフィールドワークとして、現状のシェアサイクルポートの状況を確認した。

- 1月12日(金)近隣シェアサイクルポート調査フィールドワーク
参加者:カワカタ、松本、中西

※会議議事録③参照

議事録③

那古衆共創プロジェクト分科会会議③

2024年1月12日(金)19:30～、Mirumeにて

参加者：カワカタ、松本、中西

今回はプレゼンに向けパワーポイントの資料をまとめる話し合いをしました。

この日はカリテコさんに話を聞いた後だったので、シェアサイクルを増やしていくための現実的な課題や、そのうえで那古野下町衆の役割やまちづくりへの思いなどにも話が及び、もう一度目的やゴールに向けて再考する時間となりました。

<プレゼンについて>

- ・プレゼン資料は10ページでまとめる
- ・プレゼン+質疑=6分+2分

<プレゼン内容>

【現状と課題】

コロナ明けてから地域住民以上に観光客(主に海外から)が増えた。店舗を構える者としてはこれがリアルな声。

利用客が周辺住民だけでは今後お店が成り立っていかないかもしれないという危機感を感じている。

地域のひとを大事にしたいという思いもちろんあるが、まちを残すためにも観光客の存在は重要であると
考えている。

【思い】

この町を良くしたいからこそ、いいバランスで観光客にも来てほしい。何事もバランスを取るのは難しい。どっ
ちかに舵を切る方が簡単だが、那古衆としては住む人にも訪れる人にも優しい町にしていきたい。

そのために交通を使い観光客が訪れる場所にしたい

【具体的事例】

カリテコなどのシェアサイクルを活用する。

シェアサイクルが増えることで、名古屋の観光地を人が回遊し、その中で円頓寺商店街や那古野にも人
が来るようになれば。円頓寺商店街や那古野の観光客だけを増やすというのは長期的に考えると現実
的ではなく※、周辺観光地全体で観光客が増えることによって、那古野に観光客が増えるというのが理
想の形。

※那古野で1日過ごすにはコンテンツに限界がある。カフェやランチをハシゴする方は少数。

【ゴール】

大手企業さんが出来ないことを、那古衆でサポートできるかも？地域と企業を結ぶのも那古衆の役割と
して重要かもしれない。

今回は1つの事例としてカリテコさんの話しをしたが、カリテコさんに限らず地域と企業／観光を結ぶ存在
として役割を発揮していければ。

<感想>

- ・名古屋駅近く(円頓寺本町商店街周辺)にはポートが多い
- ・ポートはあるが在台区数が少ない
- ・円頓寺商店街及び四間道界隈にはポートが少ない
- ・名古屋城のポートは那古野から一番近い正門前にあるが、各社3台ほどしか置いてない
- ・回遊するために街来者シェアサイクルをにを進めるには課題が多い

円頓寺商店街近隣シェアサイクルポート在台区数

調査期間2023年12月15日～2024年2月16日

- ・約2か月間、近隣のポート在台区数を調査したところ、実際には台数があまりないことが分かった。
- ・いざ使おうと思ったときにポートに自転車がない
- ・近隣からシェアサイクルを利用して来街した際には駐輪しやすい

1月12日(金)名鉄協商カリテコ様へのヒアリング

参加者:カワカタ、松本

※資料ヒアリング①参照

- ・この地域にポート数を増やすのが課題
- ・地域と連携して課題をクリアにしていきたい
- ・一日3回車で在台区数を調整している強みがある
- ・名古屋城への設置は各社同列なので制限がある

ヒアリング①

那古衆共創プロジェクト分科会

名鉄協商モビリティ事業部シェアリング事業部ヒアリング

2024年1月12日(金)13:00～、Mirumeにて

ご担当者様: 部長犬飼様、マネージャー成瀬様

参加者: カワカタ



1月12日(金)、今回の那古衆の取り組みについての一環として、名鉄協商モビリティ事業部シェアリング

事業部の犬飼様と成瀬様にお話をお聞きました。

事前に円頓寺商店街・円頓寺本町商店街・四間道近隣にあるカリテコさんのポートを散策してみたの

で、その感想を踏まえながらお話を聞いてみました。

聞いてみたいこと

- ・多言語対応
- ・ポート数や台数は足りているのか
- ・観光への活用



① 円頓寺本町商店街近隣ファミリーマートに設置されたポート



②円頓寺本町商店街を出て南のポート



③なごのキャンパス角のポート

こうして歩いてみると、円頓寺商店街・四間道周辺にはあまりポートが設置されていませんでした。



カリテコさんもそれに関してはよくご存じのようで、現状なかなかポートの設置場所を見つけることができない

とのこと。

写真①と③のように、「ファミリーマート」や「なごのキャンパス」といった建物があると、アイコンを頼りにポートを探しやすいのですが、マンションの奥に設置してあると、土地勘がない場合探すのに苦労しました。奥まったところに設置してあることを思うと、やはり観光客の利用というよりも、地域在住もしくは通勤の方が利用している印象です。

写真②のようにカリテコさんとチャリチャリさんが併設されているポートがありました。こちらもお話によると利用者は自分にとって使い勝手が良い方を選ぶため、競争するというよりも併せてポートを活用し、それぞれの強みを生かすというお話を伺いました。



名古屋城正門前のポート

那古野エリアから近い名古屋城前のポートには、4社のシェアサイクルが設置されていました。こちらは名古屋市の管轄の土地に設置するため、各社の台数も同じに決められて、平等に設置されているとのことでした。

観光の方々が、那古野から名古屋城へシェアサイクルを利用して向かった際、利用サイクルのポート数が少ないのでは...と思うのですが、行政エリアに1社または2社だけが増やすことが難しいのだとわかりました。

観光者向けとして行政や市町村から誘致され設置するのであれば大きなポートが設置できると思いますが(事例：美濃加茂市等)、現状目的地にポートが少ないのは、大きな課題となりそうです。

今後、那古野エリアで利用者にとってシェアサイクルが使いやすい環境を作るには、私たちのような地元団体の努力も必要だと感じました。

2月1日(木)チャリチャリ様へのヒアリング

参加者:カワカタ

※資料ヒアリング②

- ・足しげく地域に通う事でポート数が増えている
- ・まちの景観も大切にしながらポートの設置を考えている
- ・シェアサイクルを通じてまちづくりも考えていきたい
- ・まちで暮らす人たちに活用してほしい
- ・名古屋城への設置は、基本国有なのでかなりハードルが高い

ヒアリング②

那古衆分科会ヒアリング②

2024年2月1日(木)

ご対応者: neuet 株式会社 (チャリチャリ) 田口大輔様

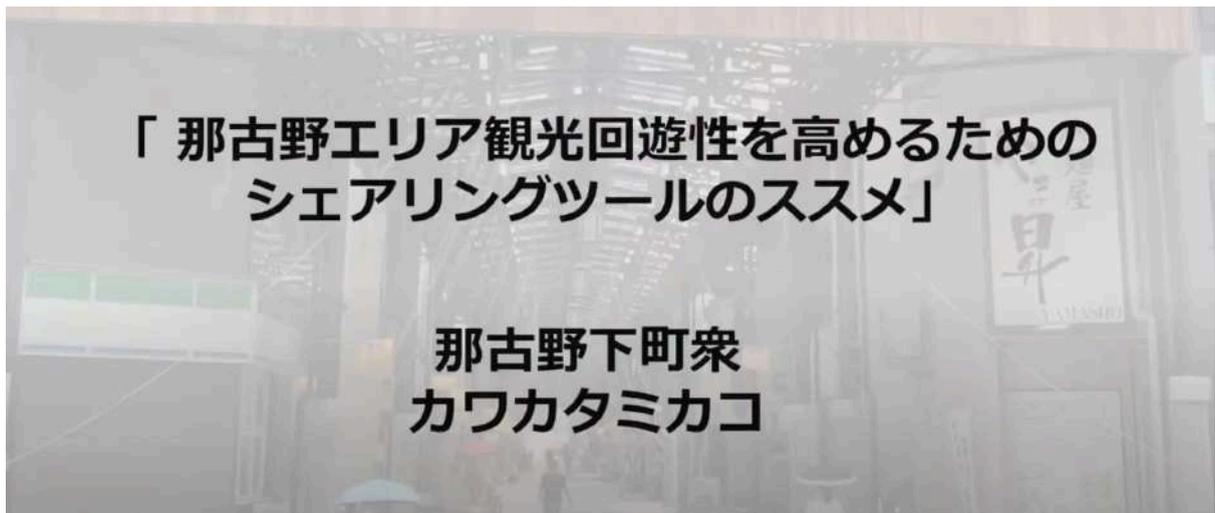
- ・現在少しづつではある但那古野開催にポートを増やしている
- ・まちづくりに関わりたいので、商店街にシェアサイクルを並べるのではなく、景観を活かした設置の方法を
考えたい
- ・まずはそこで暮らす人たちにシェアサイクルを活用してほしい
- ・設置台数が安定しない点に関してはなかなか難しい面がある
- ・今後那古衆の活動でも協力できることがあればぜひお手伝いしたい
- ・田口さんは現在、岐阜県白川町の観光サイトのサポートをしているそうなので、シェアサイクルに関しても、
それ以外でも、もっと多面的な考えを持って活動していきたいとのこと

地域共創シンポジウムにおける成果報告

発表資料

※参照トーク台本

※参照パワーポイント資料



私たち那古野下町衆は2007年に名古屋市西区那古野の円頓寺商店街・円頓寺本町商店街、四間道の店主を中心に、コンサルタントや企業関係者、大学関係者、建築関係者などの有志が集まりスタートしました。私自身は円頓寺商店街の店主として在籍しています。

発足以来、「名古屋市西区那古野のまちづくりを点や線ではなく面で考える」として、イベントの開催や商店街等で行われるイベントの補佐、防災について、また観光についてなど、様々な件について取り組んできました。

那古野下町衆とは

2007年に発足した有志団体
多様な職種のメンバーで
那古野エリアのまちづくりを
さまざまな視点から考える





「那古野エリア観光回遊性を高めるためのシェアリングツールのススメ(仮)」



名古屋市西区那古野エリアは名古屋駅、名古屋城、伏見などまで徒歩圏内に位置します。名古屋駅の高層ビルがそばにありながら、円頓寺商店街や円頓寺本町商店街のような昔ながらの古き良き商店街を含み、さらに蔵と長屋が今なお残り名古屋の歴史を感じられる四間道といった場所を有しています。商売を営む人々と、そこで日々暮らす人たちが相まって、ゆるやかな日常が流れている、そんなまちです。

その魅力は近年、観光スポットとして注目され、週末や連休などは観光客でにぎわう場所となりました。特にコロナ禍が明け、最近では外国人観光客も急増しています。もはや望む望まないではなく、世界中から観光客を迎え入れることはすでに始まっていると言えます。

また商店街は、生活商店街として住民の皆さんに利用されている場所ではありますが、高齢化が進むとともに、観光客の皆さんも大切なお客様となってきました。

那古野エリアの観光課題



「那古野エリア観光回遊性を高めるためのシェアリングツールのススメ(仮)」

那古野エリアは観光エリアとして注目されていますが、課題の一つとして「回遊時間の短さ」があります。カフェや飲食店の多さに比べ、見る・買うといった場所が少ないのが問題のひとつです。しかしながら、名古屋城や名古屋駅、ノリタケの森やトヨタ産業技術記念館などへ徒歩で行ける距離にあることを強みとすれば、那古野とその他のエリアとの回遊性を今以上に高めることで、この課題をクリアしていけるのではと考えました。そこで、まずは名古屋城と那古野をつなぐ移動交通を探してみました。

現状の回遊方法



※「はるまち交通センター」ホームページより



※「はるまち交通センター」ホームページより



※「名古屋市」ホームページより

「那古野エリア観光回遊性を高めるためのシェアリングツールのススメ(仮)」

徒歩圏内に名古屋城やその他観光地があると言っても、土地勘のない観光客が歩いてその場所に行けるか？というと、少々微妙です。過去にも円頓寺商店街で何度か「ここから名古屋城に

はどう行けばいいですか？」と聞かれた際、徒歩でもバスでも説明がしづらい、と感じたことがあります。

現在の移動方法として、名古屋市営地下鉄、名古屋市営バス、名古屋観光ルートバスメールがあります。加えて堀川を東山ガーデンさんの貸し切り船を使えば移動できますが...金銭面等現実的とは言えません。

一番メジャーな移動方法として観光ルートバスメールがあります。こちらは70人乗りのバスで、平日は30分～1時間に1本、土日休日は20～30分に1本の運行をしています。

シェアサイクルのすすめ



このような公共交通機関も便利な移動手段ではありますが、「すぐ」「そこ」にある移動方法として注目しているのは、近年、那古野エリアでもポートが増えているシェアサイクルです。本日チャリチャリさんもお話していただきましたが、現在利用者が非常に増えています。円頓寺商店街に一番近いポートでも、ほとんど利用されている状態で、なかなか借りられません。

今回、私たちはシェアサイクルを運営しているカリテコさんにお話を伺いました。

マップで見ると名古屋駅や伏見・栄にはポートが多くあります。円頓寺本町商店街は名古屋駅に近いことから、商店街を出たところであればポートが点在しています。しかし円頓寺商店街・四間道界隈となると、数がまだまだ少なく、また名古屋城周辺にも多いとは言えない状況です。シェアサイクルの利点は乗り捨て可能なことですので、ポートを増やしていくことが、回遊のしやすさには欠かせない課題です。ただ名古屋城は行政区域のため、指定数しか置けないようで、今後は回遊型観光者のためにも、もう少し台数やポート数を増やしてもらえないかと思いました。

那古野下町衆ができることは？

- シェアサイクルという便利ツールの周知

→ 観光客が楽しめる使い方案内と近隣ポートのマップ

- ポート数を増やす働きかけ

→ 地の利を生かした近隣の調査や、声かけ

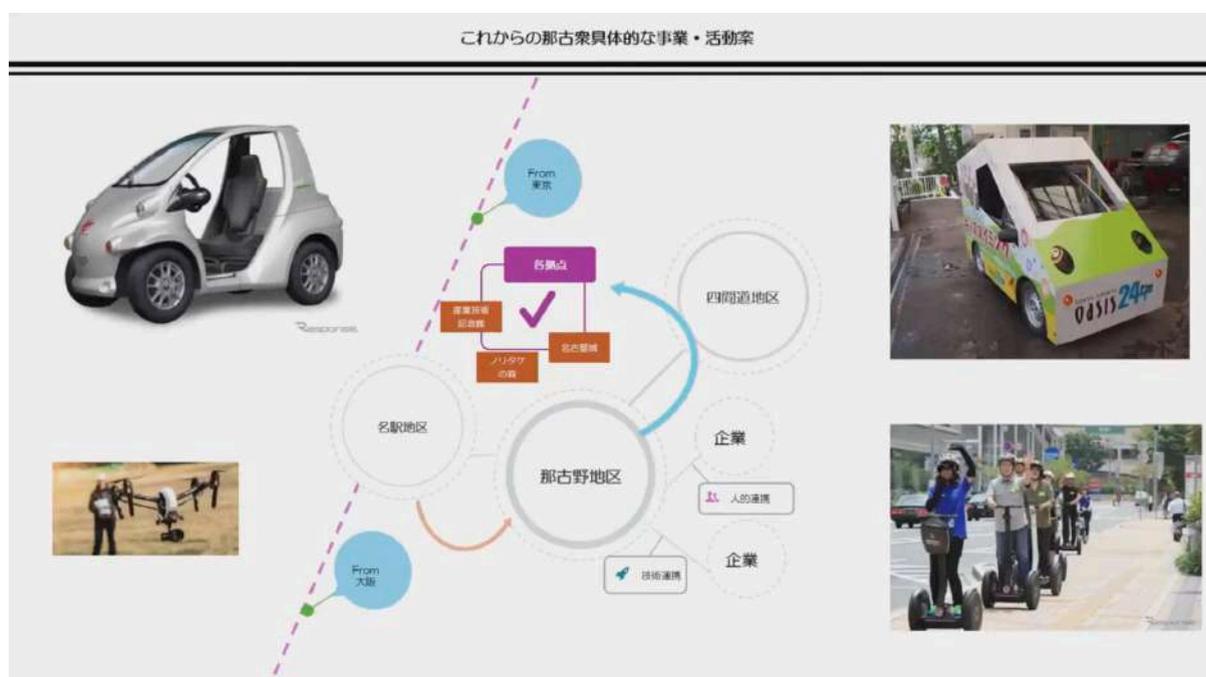
さて、このような課題を解決していくために、今、那古野下町衆ができることは、

- シェアサイクルという便利なツールを観光客の皆さんに周知してもらう
- ポート数を増やす働きかけ

この2点かと思います。

周知に対してはシェアサイクルのマップ製作を考えています。これは、まず使ってみるためのハードルを下げられるような、さらに近隣観光施設への誘導、ポートの場所がわかるようなシンプルなマップが良いと考えています。

それから、ポートを増やす働きかけについては、長年このまちで活動してきた私たちならではの地の利を生かして、企業さんとの橋渡しができればと考えています。



那古野エリアはこれからますます名古屋駅周辺や名古屋城への回遊の拠点となってきます。また本エリアへの企業参入も増加してくると思います。しかしまだ交通の面では脆弱な部分が多く、その点を強化するのが那古野下町衆の役割だと考えます。

那古野下町衆のポリシーは！

訪れた観光客にエリア内で楽しく快適に回ってもらいたい。

+

地域住民の老若男女誰一人として、地域内の移動で不便があってはならない。

「那古野下町衆のポリシー」

その役割の中で、私たちのポリシーは

「訪れた観光客にエリア内で楽しく快適に回遊してほしい」それに加え「地域住民の老若男女誰一人として、地域内の移動で不便があってはならない」この2つでありたいと思います。

那古野エリアの観光地化はもはや避けては通れないところに来ています。ただ、それは、もしかすると、このまちで暮らす人々にとって決して喜ばしいことばかりではないかもと、今回感じた部分もあります。

しかしながら、私たち那古野下町衆ができることは、まちの皆さんの意見を聞きながら、観光に来る来街者を受け入れる、両方のバランスが取れる、そんな存在になることではないかと、改めて感じました。この後円頓寺商店街理事長の田尾さんがトークをされますが、円頓寺商店街を含む那古野エリアのまちづくりを長年考えてきた私たちは、そこに暮らす皆さんも、那古野というエリアに遊びにくる観光の皆さんも、どちらにとっても楽しいまちづくりを考えていこうと思っています。

私たち那古野下町衆は

まちに暮らす皆さんの声と来街者の
声を聴くことができる。

両方のバランスを取れる、そんな
存在になることではないか。

まとめ

シンポジウムにて「観光回遊性を高めるためのシェアリングツールのススメ」として、現状の問題点・課題点を浮き彫りにし、解決策を提案した。

シンポジウムに向けて、チームの会議を重ねるにつれ、観光に対しての取り組みだけでなく、那古野下町衆としての在り方、まちづくりへの取り組み方を再度考える機会にもなった。店舗誘致や観光化を推進する際に置いてきぼりになりがちな住民を取りこぼすことなく、そもそも地元根付いた那古野下町衆が主体となって、那古野エリアの活性化をリードしていくことは重要であると再度認識できた。

また他エリアのシンポジウムリレートーク参加者のトークから、当該地区と同様の課題を抱えているとわかり、参考になった。

課題に対しての今後の取り組み

今後、名古屋への観光街来者は国内外ともにさらに増加していくと予想される。

那古野エリアへの来街も、徒歩圏内ながら、地下鉄・市バスでは行きづらい近隣施設へのアクセスが、シェアサイクルを使えばもっとタイムパフォーマンス良く回遊できることがアピールできれば、さらに増えるものと考えられる。

そこで来街者が気軽にシェアサイクルを使えるような下記環境づくりを那古野下町衆で検討していきたい。

- シェアサイクルが身近になるマップ
- ポート設置の誘致

シェアサイクルの企業にヒアリングをしたところ、まず初めに利用するまでが大きなハードルであるとのことだった。来街者が「シェアサイクルを使ってみようかな」と思えるようなマップを製作することで、そのハードルを下げられるのではないかな。

またポートの設置については、地元で活動している地の利を生かし、企業と情報を共有することで、設置数を増やし、シェアサイクルの在り台数をある程度キープできるような環境を整えていくことが必要となる。しかしながら設置することばかりを重視すると、住民のまちへの想いをくみ取れなくなる可能性があるため、企業と地域の想いを双方尊重できるような立場を作りながら、進めていくことが重要である。

人材育成のためのカリキュラム作成

那古野下町衆人材育成

まちあるきを開催し地域への理解を深める

本地域で活躍するガイドに那古野エリアや新道エリアでのまちあるきガイドを依頼し、地域への理解を深める作業を行う。まちあるきを通じて新たな視点から現在の問題や課題を見出すとともに、地域の魅力を探し出し、マッピング作業をおこなう。またガイドからエリアの歴史や情報を学び、紙媒体やSNSなどを通じて那古野エリア等の魅力の発信を行う。

地域交流の場に積極的に参加し、現状の課題や地域の望む声を拾う

まちづくり協議会や那古野下町衆の会議に積極的に参加し、地域住民の想いや商店主たちのまちづくりへの取り組み等を聞く中で、議事録作成等に協力し、課題解決への提案・行動をする。

エリアで行われるイベントに参加し地域との交流を図る

年間を通じて行われるさまざまなイベントの企画運営を通じて、地域との交流を図りながら人材を育成する。またイベントに対し、地域店舗が積極的に参加できるような働きかけを行い、地域の中から新たなまちづくりの人材を見出すきっかけを模索していくことも課題とする。

観光プロジェクトチームをたちあげ、那古野エリアを観光視点から見ることができる人材育成を行う

観光に特化したチームを組み、観光化に必要なもの(情報発信、回遊性を高めるツール、人材、企画等)を具体的に話し合い、地域のためのまちづくりと並行して進めていく。視察や調査など、地域外部との情報交換や交流も行う。